



1 垂柳遺跡



昭和56年に弥生時代中期末の水田跡が良好な状態で発見され、全国的に注目を集めるとともに、学術的に高く評価されている。ここで出土した土器は「田舎館式土器」と称され、東北北部の土器編年上標式遺跡として重要な役割を担ってきた。東北地方の弥生社会解明の発信地となり得る重要な遺跡である。

2 生魂神社

大同2年(807)、坂上田村麻呂の創建と伝えるが、修験がいた大日如来堂であった。明治の神仏分離で現社名となった。

3 胸肩神社

【県重宝 十一面観音菩薩立像】

時期<江戸時代前期 寛文7年(1667)ころ>

佐井村長福寺像とほぼ同様の表現をみせ、おそらくほぼ同時期に制作したものであろう。また長福寺像と比べると、右の衣や下半身の表現によりぎこちなさがあり、津軽下北をとおして最も早い時期の作例と考えられる。



古くは、生魂神社にあったものが、明治初めの神仏分離の祭、工藤孫助家で持仏として祀ることとなっ

明治44年頃、弁天堂に奉納、現在は集落の老女たちが信仰、管理している。

4 田舎館城址

天正13年(1585)5月20日(19日の説もある)津軽為信に攻略された田舎館千徳掃部政武の居城である。

慶長6年(1601)3月10日の清水森大法会における政武夫人お市の方の自刃の逸話とともに長く語り伝えられている。



5 サイカチの大樹

田舎館城跡の地にあって、樹令400年以上、樹幹に空洞がある大樹で、遠くより望める。

天正13年5月20日(19日の説もある)の津軽為信との戦いで死んだ300余名を埋葬した時の供養樹、また一説には津軽二代藩主信枚公の奨励によって植えられたとの伝えもある。

6 二本柳一族の墓碑

の妙堂(現在は川口)に三基、妙堂の北方にある稲荷神社境内の一隅にある卍堂に三基の墓碑がある。

二本柳の一族祖三郎右衛門重次は、津軽為信に仕え、田舎館落城後田舎館を預けられた。二人の子は諏訪堂に住んで、のちに弘前城下へ移住した。

7 エゾエノキ大樹

川部熊野宮境内にあって、樹令450年以上、樹高17m。村の氏子から神木として親しまれている。

江戸時代街道の一里塚に植えられたものだといわれ

ており、「藤崎組絵図」によるとこの辺りに一里塚があった。

8 嘉暦の板碑

鎌倉末期に起きた安東氏の内紛(安藤氏の乱)で命を落とした者への供養塔といわれる。

9 二津屋の板碑

小阿弥堰改良区の水路工事の祭、金枝芳幽家宅側より発見されて、現在は二津屋の共同墓地にある。元享年間(1321~24)頃の供養碑であるとされている。

10 常盤八幡宮

【常盤八幡宮年繩奉納行事】

毎年元旦の朝、五穀豊穰や家内安全を祈願する伝統行事です。長さ4.4m、幅2.3m、重さ400kg以上の巨大な年繩を常盤八幡宮に奉納。常盤村地区で寛文4年(1664)から340年以上続く古い歴史を誇る真冬の勇壮な行事です。



11 徳下八幡宮

江戸時代初めに建立されるも、その後大破し、延宝4年(1676)に再建されると伝わる。明治8年(1875)に村社となる。

